

## 6 研修生のページ

### 研修を終えるにあたって

育成調教技術者養成研修 第26期生

昨年4月に入講したBTCの第26期育成調教技術者養成研修生の皆さんに、1年間の研修を受けるなかで、所感を書いていただきました。競馬界を支えるホースマンとして活躍されることをお祈りしています。

#### ラストスパート

後藤 雄貴

昨年4月から始まった研修も、まもなく1年が経とうとしています。短い期間の中で、この研修でしか学べないことを際限なく経験させていただいています。一例として、研修を通じて様々な牧場の方からの講話を聞く機会が多くありました。実際の経験を基にアドバイスしていただけるので、これから牧場に就職するにあたりとても参考になりました。その中で個人的にとっても印象に残っている言葉があります。それは「現時点で周囲から遅れを取っていても、それはまだまだ追いつくけれど、今の年齢でどれだけ努力するかでその先の人生が決まる」というもので、自分にとってとても良い刺激となり、励みになりました。

騎乗訓練では上手くいかないことの方が多いのですが、馬と折り合って、上手に騎乗できる時の喜びは、何事にも代え難いものです。現在行っている日高育成牧場での実習では、若馬に対する扱いの難しさを痛感しています。この経験もそのうち馬を育てる楽しさへと変化しそうな気がしています。その魅力を1日でも早く感じ取れるように、残り少ない研修を悔いの残らないものにしていきたいと思っています。



#### 無限の可能性

佐々木 祥

研修も残り僅かとなりました。全員自分に合った牧場を見付けるため、色々な牧場の話を聞いたり、実際に見学に行ったりして就職について真剣に考えています。

思えば入講した時は何も知らなかった自分達も、今では様々なことを知り、実践してきました。しかし、この研修を卒業したからといって、プロのホースマンとして全てのことができ、全てのことを知ったというわけではなく、まだこの業界のことを少しかじった程度だと思っています。まだプロの世界を何も知らないとも言えます。しかし、逆を言えば、何も知らないから何でも出来るとも言えます。この研修を始めた時も何も知らなかったけれど、そのおかげで厩舎作業、騎乗など様々なことを早く吸収することが出来たのだと思います。

私達にはそれぞれ夢があります。それは1人1人違いますが、実現するために様々な知識や技術を吸収していく必要があります。しかし、私達は知らないからこそ何でも吸収することができます。言わば無限の可能性！できないことはないと思います。この研修を通して学んだのは、馬の知識や技術だけでなく、何事にも諦めない強さと常にチャレンジすることであり、自分の頑張り次第で可能性は無限となるということです。



## 努力することの大切さ

山谷 晶

私がこの研修で学んだ日々を振り返ると、短くも長い時間を過ごしてきたように感じます。入講した頃は、出来ないこと、知らないことばかりでしたが、騎乗はもちろん、厩舎作業や学科など日々の研修を通してたくさんのことを学び、経験することで、できなかったことができるようになっていきました。

しかし、私にとって「できるようになる」ということは、簡単なことではなかったように思います。馬が暴れて落馬したことや、走っていく馬を止められなかったこと、この研修の中でたくさんの失敗をしてきました。そのたびに「次はちゃんと乗れるようにしたい！」と思い、なぜ失敗したのか考え、教官方にアドバイスをもらい、寮にあるシミュレーターに乗って次はどの様に乗るべきかを確認する。それでも次の日にまた同じ失敗をしてしまい、上手いいかないことが続く日も

あり、努力することがちゃんと次に繋がるのか、牧場で通用する乗り役になれるのか不安になることもありました。しかし、継続して努力を重ねていけば、いつか成果が現れる！そう信じてやっていたら、必ず綺麗な姿勢が取れて良い騎乗ができる日が来る！そう思うと、とても嬉しい気持ちになりました。

研修が終盤を迎えた今でも、失敗することはたくさんあります。しかし、失敗したことを無駄にしないこと、諦めずに努力することをこの研修を通じて学びました。



武豊騎手の言葉に「競馬は勝つよりも負ける確率の方がずっと高い勝負だから、負けるたびにショックを受けていたら務まらない。その圧倒的に多い負けを無駄にしない人が人よりちょっと勝つことができる。」というものがありません。そのような勝負の世界に生きていく馬を育てていく人間として、これからも努力することを忘れずにいようと思います。

## 若馬の難しさと楽しさ

土口 洋希

僕達は年明けから、JRA日高育成牧場で2歳馬の調教を兼ねた牧場実習をさせてもらっています。

今までは教育用馬でトレーニングを行っていて、若馬に騎乗するのは今回が初めてのことなので、様々な違いを感じています。まず、若馬は騎乗していても集中力があまり無く、すぐに遊んできたり、物見が激しかったりと、

悪い面が出てきやすく、人がしっかりと指示を出さないとすぐに悪いことを覚えてしまいます。そのため、馬としっかりと会話してやり、馬が騎乗者をリーダーだと認識するよう、自覚を持って乗っていかないといけません。また、完成された教育用馬と違ってパワーやスタミナが無かったり、走り方がしっかりしていません。こういった面からも、今までは馬から教わる騎乗だったものを、馬に教える騎乗に変えていく必要があります。しかし、今の自分達には、まだ馬に「教える」ということがしっかりと出来ていないのが現状です。もっと技術を磨いて、馬を導いてあげられるような騎乗者になることを目指したいです。



また、現在騎乗している2歳馬が上場される4月のブリーズアップセール前に日高育成牧場において育成馬の展示会があり、自分達も騎乗や立ち馬展示を行う予定です。馬が購買される直前の部分まで携わらせてもらえるので、今から楽しみです。

現在、僕達が行っている若馬の調教は、育成牧場の仕事のメインとなる部分であり、とても大切な研修なので、これからの1鞍1鞍をより大事にしていきたいです。

## 人との繋がり

和田 吉弘

研修も残り3ヶ月間となり、現在はこれまでに学んできたことをもう1度自分の中で整理して、さらなる技術向上を目指し日々の研修に取り組んでいます。

私はこの研修を通して、教官や仲間の研修生、BTCの職員の方々など、たくさんの人達に支えられ、助け合っていく中で、自分自身が大きく成長していると感じるようになりました。

自分の気付かない所で様々な人達が、この研修をより充実したものにしようと協力してくれていることで、失敗や反省の繰り返しの毎日でも、常にそれを感謝の気持ちとして受け止めて、失敗を次の成功に繋げていくことができるようになりました。

日々の騎乗訓練や厩舎作業でも、1人で考えて行動するのではなく、教官や研修生同士で話し合い、アイデアを集め合うことでより良いものとなり、想像以上の結果が得られることを実感しています。

残り僅かですが、感謝の気持ちを忘れず、残りの研修も全力で頑張っていこうと思います。また、これからも人との繋がりを大切にしていきたいです。

